

オープンカレッジのご案内(第3期)

今日、科学技術は大きく進歩し、私たちはその恩恵に浴しています。科学の進歩は日進月歩であり、かつて学んだ知識は古く役立たないものがあります。また、身の回りには多くの情報が氾濫して、どれをどう自分の生活に生かしていくべきか、戸惑うことが多々あります。

本オープンカレッジでは、本学の基礎・臨床分野が蓄積している最新の研究情報を、市民の皆様にはわかりやすく解説いたします。皆様には、自己研鑽と再学習の場としてとらえ、日々の生活を実りあるものに、また、将来の生活設計のために役立てていただければ幸いです。

開講科目

「脳とこころのサイエンス」

開講場所

名古屋市立大学 桜山キャンパス ※裏面参照

方式

対面講義

開講日時

令和6年11月1日～令和6年12月20日
毎週金曜日18:30～20:00 講義は全8回で構成。

募集定員

80人

受講料

8,000円 開講前に振込依頼書にてお支払いいただきます。

募集対象

一般市民の方(学生・大学院生の聴講可)

応募受付期間

9月17日(火)～10月4日(金)

(注)新型コロナウイルス感染症の状況により、講義回数、日程、内容等が変更になる場合がございます。ご理解・ご協力をよろしくお願い致します。

応募方法

E-メール または 往復はがき(いずれも応募申込事項①～⑧をご記入ください。)

e-メールの場合: igakubuoc@sec.nagoya-cu.ac.jp

応募申込記入事項:(往復はがきの往信の表裏)

4678601
名古屋市立大学
オープンカレッジ
医学研究推進課
担当宛
名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

- ① 応募科目
- ② 氏名(フリガナ)年齢
- ③ 郵便番号・住所・電話番号
- ④ e-メールアドレス
- ⑤ 職業
- ⑥ 応募の動機
- ⑦ 緊急連絡先
(平日の昼間に連絡をとる場合の連絡先をご記入下さい)
- ⑧ 本講座の情報入手先
(初めて本講座を受講される方のみご記入ください)
例: 広報なごや、知の広場、知人の紹介、ホームページ、パンフレット等

※現在ハガキの発送料金は63円です。往復はがきをご利用の際は、金額をよくお確かめください。
(返信の表裏) (10/1以降は85円)

あなた
の住所
氏名を
ご記入
下さい。

(何れも記入してください)

選考方法

応募人数が定員を超えた場合は、応募動機による選考のうえ、抽選とすることがあります。

選考結果

10月16日(水)までにお知らせします。

問い合わせ先

名古屋市立大学医学研究推進課 オープンカレッジ担当

467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 tel:052-853-8077

ホームページ

<http://www.nagoya-cu.ac.jp/med/philanthropy/opencollege/index.html>

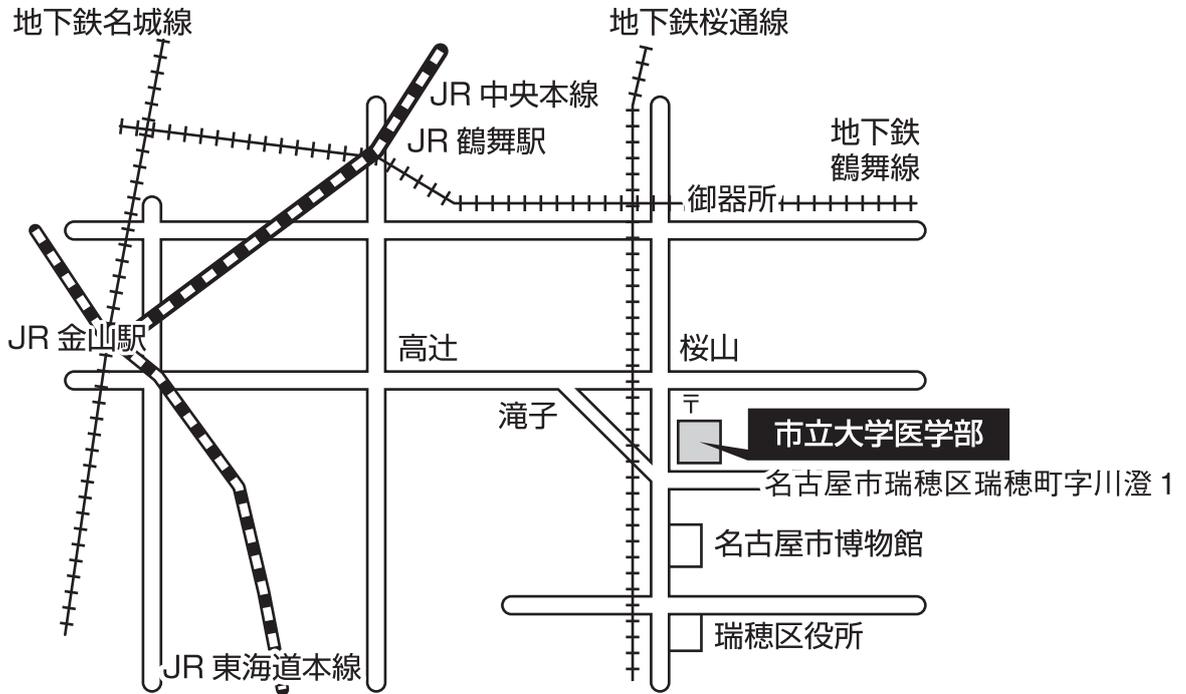


オープンカレッジ会場 案内図

〔交通機関〕

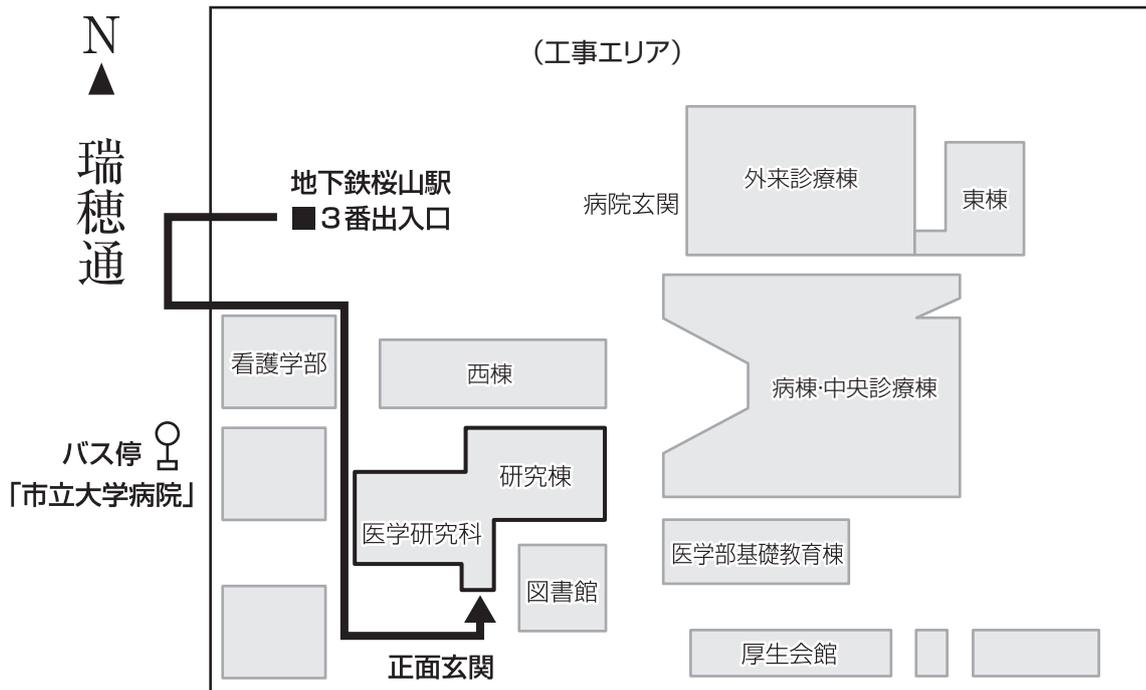
金山駅から市バス「市立大学病院」下車、または名古屋駅から地下鉄桜通線「桜山」下車

注：お車でのご来場はご遠慮ください



会場：医学研究科研究棟 11階 講義室 A

正面玄関から入って、1階ロビーよりエレベータで11階へお上がりください



科目名 「脳とこころのサイエンス」

コーディネーター 名古屋市立大学大学院医学研究科
認知機能病態学 寄附講座教授 野村 洋

「こころ」はどうやって生み出されるのでしょうか。私たちが考えたり、覚えたり、友達とおしゃべりして楽しんだりできるのは、脳の働きのおかげです。普段は意識しない脳の働きですが、その緻密な機能は決して当たり前ではありません。脳がうまく働かないと、生活に様々な支障が生じます。これまで「こころ」や「こころの健康」の仕組みは長い間ブラックボックスでしたが、最新の脳研究によって少しずつ解明が進んできました。本講座では、脳がどのようにして作られ、「こころ」をどのように生み出すのか、そして認知症や発達障害がどのようなものかを説明し、「こころの健康」について理解を深めることを目指します。

第1回 11月1日(金) 記憶と学習の脳科学 野村 洋 (名古屋市立大学大学院医学研究科 認知機能病態学寄附講座 教授)

記憶、というと過去の情報を保存するだけのようと思われるかもしれませんが。しかし実際には、脳の記憶システムは過去をもとに未来の行動を決定する重要な脳の働きです。例えば、勉強を頑張って成績が伸びた体験によってさらに勉強する行動に結びついたり、逆に負の記憶によってその後の行動のモチベーションが低下し、場合によっては PTSD やうつ病が引き起こされたりします。また認知症では記憶システムがうまく働かず、当たり前の日常生活ができなくなってしまいます。この講義では、脳の記憶システムの仕組みをわかりやすく解説します。

第2回 11月8日(金) 発育期の運動と情動、そしてその障害 飛田 秀樹 (名古屋市立大学大学院医学研究科 脳神経生理学 教授)

脳には大きく 2 つの働き、動物的機能と植物的機能があります。刻々と変化する外部の状況に応じて最適な行動で遅く生きることは、動物的機能によって可能となっています。この動物的機能の形成において、発育期は非常に重要な時期であり、運動と情動の働きが発育期の過程で完成します。本講義では、こころのベースにある ” 情動 ” とは何か？についてまず説明し、発育期の運動障害や情動形成の仕組みについての研究成果を紹介します。この講義から「こころの健康」の一端がご理解いただければ幸いです。

第3回 11月15日(金) 神経疾患と認知機能障害 藤岡 哲平 (名古屋市立大学大学院医学研究科 神経内科学 助教)

超高齢社会を迎えた現状において、アルツハイマー病、パーキンソン病、脳血管障害などの神経疾患の患者数は増加しており、それによる認知症は身近であり、かつ社会全体での大きな問題となっています。代表的な神経疾患の病態や症状、現在行われている診断や治療の方法、予防や対策について、最新の知見をふまえて、臨床医の視点から解説します。

第4回 11月22日(金) キズついた脳細胞を再生するためには？ 久保山和哉 (名古屋市立大学大学院医学研究科 神経発達・再生医学 助教)

神経科学の基本概念を提唱した解剖学者ラモニ・カハールが “ 一度成長した中枢神経系は損傷しても再生はしない ” と述べたように、かつては「脳や脊髄は再生できない」と考えられていました。しかし、1980 年代の成体哺乳類脳でのニューロン新生の発見を皮切りに、現在では「中枢神経系の再生は可能である」と常識が変わってきました。本講義では、哺乳類脳におけるニューロン新生システムの仕組みと、キズついた脳細胞の再生を目指した我々の研究活動について理解りやすく解説します。

第5回 11月29日(金) 認知症の克服に向けて 齊藤 貴志 (名古屋市立大学大学院医学研究科 認知症科学 教授)

認知症は、特に少子高齢化が進む我が国において、その克服が強く望まれる喫緊の社会問題です。最近、認知症の中でも最も患者数が多いアルツハイマー病に対する新薬が厚生省専門部会にて承認となりました。しかし、さらなる新薬の登場が心待ちにされています。次の新薬までどれくらいかかるのでしょうか？認知症研究はどこまで進んでいるのでしょうか？本講座では、認知症の発症機構を明らかにするために重要なモデル動物の開発についての取り組みを中心に、認知症研究における世界の最前線について解説していきます。

第6回 12月6日(金) おとなの発達障害 山田 敦朗 (名古屋市立大学大学院医学研究科 こころの発達医学寄附講座 教授)

発達障害という疾患は、最近では非常に身近なものになりました。発達障害は子どもだけでなく、おとなになっても続いたり、おとなになって初めて顕在化したりする例も少なくなく、ライフスパン全体を通して、診療を含めた支援が必要です。発達障害臨床では医療にとどまらず、子育て、教育、就労といった日常生活全般に深く関わる支援が求められます。令和 5 年 8 月 1 日に名古屋市立大学病院にこころの発達診療研究センターが設立されました。このセンターの役割を紹介するとともに、おとなの発達障害の臨床を中心にお話しします。

第7回 12月13日(金) 新生児行動評価・観察の世界～自閉スペクトラム症の病態解明を視野に入れて～ 永井 幸代 (名古屋市立大学大学院医学研究科 こころの発達医学寄附講座 教授)

新生児早期からの赤ちゃんの評価、親子への介入方法としてのブラゼルトン新生児行動評価：Neonatal Behavioral Assessment Scale (NBAS) ・観察：Newborn Behavior Observations (NBO) System の紹介、およびそれをういた世界での育児支援や研究の動向、自閉スペクトラム症の病態解明への可能性などについてお話しします。

第8回 12月20日(金) 脳腫瘍研究から見えてくる正常な脳発生メカニズム 川内 大輔 (名古屋市立大学大学院医学研究科 腫瘍・神経生物学教授)

我々の脳は、適切な時期に適切な数の細胞が生まれ、正しい神経回路網を形成することで、正しい機能を発揮します。この現象は、800 億以上の脳細胞それぞれにある遺伝子プログラムによって厳密に決定されます。しかし、内在的な要因や環境要因、放射能などが原因で、この遺伝子プログラムが破綻することがあります。その結果、脳腫瘍が発生することもあります。この破綻したプログラムを解明することで、がん治療だけでなく、正常な脳の回路形成メカニズムを理解する手がかりも得られます。本講義では、脳腫瘍研究の最前線から、正常な脳の回路形成に関する新しい取り組みをご紹介します。